

「新宮町に住んでいるなら知っておきたい」

新宮町の「楯」と 引き継ぐ「人」

新宮町には、新宮海岸沿いに2キロ以上にわたって松が植えられており「楯の松原」と呼ばれています。松林はその独特な景観と落ち着く緑の色合いで、春秋は散策するのに最適です。熱波の夏は松林の木陰で一休み、冬には雑草などが枯れて松林の中の見通しがよくなり、四季折々のすがたを見せてくれます。

松林に入ると、まず深い緑の香りが鼻をくすぐります。空気が涼やかになり、足元には松葉や松ぼっくりが散らばり、その上を歩くとカサカサと心地よい音がします。遠くでは鳥のさえずりや風が松林の中を通り過ぎる美しい音が聞こえてきます。中に進むと、樹齢200年を超える老松やさまざまな形をした松が目を楽しませてくれます。

楯の松原って

どんなところ？



17世紀に福岡藩主の黒田長政により、松を植えたのがはじまりです。その後も植林が続けられ、住民の生活と財産を守る「楯の松原」と呼ばれるようになりました。

現在は国有林となり「福岡県の快適な環境スポット30選」にも選ばれるなど、地域住民や協力者のおかげで、300年以上経った今でも町の楯であり、憩いの場でもあります。

はじめて知った！

楯の松原4選



その1

松の木や松の葉には特有の香りがあり、ストレスケアやリラックスイ効果がると言われています。そのため、楯の松原の中を歩くと心身をリフレッシュすることができ、健康保安林(※)に位置付けられているので、散策に適した場所です。

その2

楯の松原は海からの風、砂、潮から町を守ってくれています。潮によって、家などの建造物がさびたり、農作物が砂や潮風の塩分で育ちにくくなるのを防いでくれています。

その3

松くい虫の被害で、平成27年には2,400本が1年で枯れました。現在も毎年1,000本前後が枯れています。そのため、林野庁が松を守るために春と秋ごろに枯れた松を切り倒し、処分したり(枯れた松から松くい虫が広がるため)、毎年5月、6月に薬剤の空中散布を行っています。

その4

昭和35年ごろまで松葉は燃料として、かまどやお風呂の焚き付けに使われていました。松葉を拾う↓松原がきれいになる↓松が育つ↓住民の生活が守られる、のサイクルがうまく回っていました。

* * *

※森林レクリエーション活動の場として、生活に潤いと安らぎを提供する保安林のこと。また空気の浄化や騒音の緩和に役立ち、生活環境を守ります。

「わたしも先人から引き継いだ一人、 次の人にバトンをつなげられれば」



白砂青松の会は、毎月第1土曜日の午前9時～11時30分の間で定期作業を行っています。興味のある人はご連絡ください。
メール:singumatu@gmail.com

平成10年に結成され、長い間活動続ける「筑前新宮に白砂青松を取り戻す会」の近藤事務局長にお話を聞きました。

■活動をはじめたきっかけは何ですか？

働いていたころは、時々松の植樹などに参加していました。退職後、地域の人から声をかけられ、昔の人がつないできてくれた松原を次の世代の人に引き継げればという思いで始めました。

■楯の松原のオススメの時期はいつですか？

11月から冬の時期です。特に雪が降った後の松林はきれいなので、カメラを持って走って行きます。

■課題は何ですか？

作業の効率化です。会のメンバーの減少と高齢化という問題を解決するために、ラジコン操作のように安全に、また作業効率を上げる機材があれば、高齢者でも扱うことができます。手伝ってくれる人も作業自体を「おもしろい」と感じる機会になり、「やりたい」につながってくれればと思っています。

■最後に一言お願いします

松葉が燃料として人々に使われていたころは、松林の手入れは必要ありませんでしたが、今は松葉かきなどの手入れをしないと松林は弱っていきます。わたしも先人から松林を引き継いだ一人、引継手の一人として、次の人にバトンをつなげられればと思います。



楯の松原にかかわる人たちと保全活動

筑前新宮に白砂青松を取り戻す会、地域住民・企業、新宮中学校、新宮高等学校、福岡工業大学、町議会議員や役場職員などが協力し、楯の松原の保全活動を行っています。

11月には日ごろお世話になっている松林に感謝を込めて「楯の松原感謝day」と題し、地域住民や企業を対象に保全活動を行う予定です。(町ホームページに詳細は掲載予定)保全活動以外でも気分転換や散策などでぜひ楯の松原を訪れてみてください。